

## 保健所における HIV 検査・相談の現状評価と課題解決に向けての研究

研究分担者 土屋菜歩 (東北大学東北メディカル・メガバンク機構 予防医学・疫学部門)

研究協力者 堅多敦子 (東京都福祉保健局)

研究協力者 稲垣智一 (みなと保健所)

研究協力者 石丸雄二 (池袋保健所)

研究協力者 城所敏英 (島しょ保健所)

研究協力者 渡部ゆう (新宿区保健所)

研究協力者 大木幸子 (杏林大学看護部)

研究協力者 今村顕史 (東京都立駒込病院)

### 研究要旨

本研究は、保健所・検査所における HIV 検査の現状と課題を把握し、解決策を検討することを目的としている。今年度は、HIV 感染者および AIDS 患者報告数の多い東京都において、保健所・検査所における HIV 検査の現状と課題に関し、関係者と検査担当者から聞き取りを行った。梅毒の流行が問題の一つとして挙げられ、東京都内保健所・検査所における HIV 検査梅毒検査の実施状況を把握するためのアンケート調査、保健所職員を対象とした梅毒/HIV 研修会、梅毒が急増している若年女性用の啓発資料作成を行った。

アンケートを郵送した 36 施設のうち 35 施設 (97.2%) から回答を得ることができた。アンケート調査では、アンケートを回収できた 35 か所のうち 30 か所 (86.7%) で HIV 検査と同時に梅毒検査を実施しており、うち 27 か所 (77.1%) は定例検査で実施していた。現在実施していない施設も、梅毒の流行を鑑み今後の検査実施を検討していると回答しており、職員への情報提供や啓発資料の充実が必要になると考えられる。検査方法は RPR 法と TPFA/TPLA 法による検査を同時に実施している施設が 19 施設 (63%) であった。検査検体の委託先は東京都健康安全研究センターと民間会社がほぼ半々であった。2013 - 2015 年の 3 年間の HIV 検査結果別の梅毒陽性率 (TPFA/TPLA 法による) は、HIV 陽性者で HIV 陰性者数の梅毒陽性率 (TPFA 陽性率) は約 3%、HIV 陽性者数の梅毒陽性率は約 30% であった。HIV 陽性者における梅毒陽性率は明らかな変化を認めなかった一方で、HIV 陰性者における梅毒陽性者数および陽性率は上昇していた。

次年度以降は東京都以外の地方都市への調査拡大を予定している。今後も梅毒を含め他の性感染症の動向にも注意し、より効果的な HIV 検査・相談の実施と HIV 検査受検勧奨に役立つ調査、取り組みが必要であると考えられる。

### A. 研究目的

佐野らの報告によると (2015 年日本エイズ学会誌)、保健所等検査施設における HIV 抗体検査の陽性件数はエイズ動向委員会の報告数の約 45% に相当しており、保健所・検査所における検査は HIV 陽性者同定に重要な役割を担っている。

今年度は、HIV 感染者および AIDS 患者報告数で常に上位の自治体である東京都において、東京都内の保健所・検査所における HIV 検査・相談の現状と課題を明らかにし、解決策を検討することを目的とした。

## B.研究方法

### 1. 都内保健所・検査所スタッフからの聞き取り調査

H28年度中の複数回にわたり、行政に詳しい研究協力者と都内保健所・検査所でHIV相談・検査業務に携わっているスタッフ（保健師、検査技師、看護師、医療通訳ボランティアなど）から現状と課題についての聞き取り、ディスカッションを行った。

### 2. 「保健所・検査所における梅毒検査実施状況に関するアンケート」の実施

近年の梅毒流行を鑑み、H28年12月に東京都内保健所・検査所を対象としたアンケート調査を行った。HIV検査と併せた梅毒検査実施の有無、検査方法、委託先、検査結果の伝え方、H25-27年度のHIV検査陰性/陽性別のTPHA/TPLA法陽性者数を尋ねた。

### 3. 保健所職員を対象とした、梅毒/HIVの講習会の開催

H29年3月9日に東京都東京区政会館において、東京都保健福祉局と共催で保健所職員を対象とした、梅毒/HIVの講習会を開催した。『今知っておきたい梅毒の「い・ろ・は」』をテーマに、研究協力者の今村が講師として講演した。

### 4. 若年女性向け梅毒啓発資料の作成

20~40代の女性で梅毒の報告者数が急増していることから、HIV検査・相談の場においてもHIVと併せた梅毒啓発が必要である。従来の啓発資料は広く一般向けまたはMSM向けのものがほとんどであるため、若年女性向けの梅毒啓発資料を作成した。分担研究者の土屋、研究協力者の渡部、今村を中心に、新宿区保健所保健予防課の保健師の協力を得た。

## C.研究結果

### 1. 都内保健所・検査所スタッフからの聞き取り調査

現状と課題について、以下のような回答を得た。

#### 検査・相談担当職員から

・HIV検査の受検者数を増やすためだけのキャンペーンは、現場の負担が大きくなる割に必ずしもリスクの高い人達の受検が増えるわけではない。

・本当に検査を受けてほしいリスクグループが受検しているのかわからない。

・外国人受検者への対応が難しい（言語の多様化、予約なしでの受検のため受検者数が予測しにくい、外国人対応への予算確保、ツーリストのワンストップ受検など）

・夜間・休日の検査はニーズがあっても職員の確保や業務体制等から対応が難しいことが多い。

・東京都内でも地域により受検者数やその属性は様々であり、実情に合わせた対策の立案が必要である。

・リピーター受検者への対応に注意が必要（複数回受検する中で陽性が判明し治療につながる方もいるため、受検のモチベーションを低下させないような対応をすべき）

・他の性感染症検査・相談にも対応できる体制を整えたい

#### 通訳ボランティアから

・保健所・検査所での検査が匿名・無料であるということを知らない者も少なくない。

・外国人に対し、保健所・検査所へのアクセスや匿名・無料であることを分かりやすく情報提供してくれるようなウェブサイト、資料を充実させてほしい。

・検査のことをより多くの外国人に知ってもらうために、外国人の多く集まるイベント（例：タイフェスなど）でアピールしてはどうか。

・HIVや他の性感染症に関して基礎的な知識がない受検者も多いため、検査・相談時の情報提供が重要である

### 2. 「保健所・検査所における梅毒検査実施状況に関するアンケート」の実施

今回のアンケート調査では、東京都内保健所・検査所の36施設中35か所からアンケート結果の

返送があり、回収率は97.2%であった。

#### ①保健所・検査所における梅毒検査の実施状況

HIV検査・相談と梅毒検査の同時実施について、定例検査で実施している施設は、回答のあった35施設中27施設(77.1%)であった。3施設は6,12月などイベント時のみ実施しており、5施設は実施していなかった。同時検査を実施していない理由を5施設に尋ねたところ(複数回答可とした)、HIV検査が迅速検査であるため(梅毒検査と同時実施できない)、予算確保が困難、人員確保が困難、と回答した施設が1施設ずつあった。しかし、現在実施していない5施設のうち3施設は「今後実施予定」と回答した。

#### ②梅毒検査の検査方法

①で検査を実施していると回答した30施設のうち、RPR法とTPHA/TPLA法による検査を同時に実施している施設は19施設(63%)、LA法またはRPR法による検査で陽性だった場合にのみTPHA/TPLA法を追加で実施すると回答した施設は11施設(37%)であった。RPR法のみ、TPHA/TPLA法のみを実施していると回答した施設はなかった。

#### ③検査委託機関

①で検査を実施していると回答した30施設のうち、検査を東京都健康安全研究センターに委託している施設は15施設(50.0%)、民間会社に委託している施設は13施設(43.3%)、その他および不明と回答した施設(委託せず自施設で実施を含む)が1施設ずつであった。

#### ④梅毒検査結果の伝え方

①で検査を実施していると回答した30施設のうち、HIV検査結果と同日に予約を取って伝えていると回答した施設は24施設(80.0%)、HIV検査結果と別日に予約を取って伝えていると回答した施設は3施設(10%)、HIV検査結果と別日に予約を取らずに伝えていると回答した施設が3施設(10%)であった。

#### ⑤HIV陽性/陰性別梅毒陽性者数および陽性率

検査方法に関わらず、梅毒検査を実施している

30施設すべてを対象とした場合、H25-27年を通してのHIV陰性者数の梅毒陽性率(TPHA陽性率)は3.5%、HIV陽性者数の梅毒陽性率は32.4%であった。

RPR法またはLA法とTPHA/TPLA法を同時に実施していると回答した19施設に限ってみると、H25-27年を通してのHIV陰性者数の梅毒陽性率(TPHA陽性率)は3.6%、HIV陽性者数の梅毒陽性率は31.8%であった。

どちらの集計においても、HIV陽性者における梅毒陽性率は年度に明らかな変化、傾向を認めなかったが、HIV陰性者における梅毒陽性者数および陽性率はいずれも上昇していた。

### 3. 保健所職員を対象とした、梅毒/HIVの講習会の開催

別紙資料参照

### 4. 若年女性向け梅毒啓発資料の作成

30,000部を作成した。今後保健所・検査所を始め、関係各所に配布する予定である。

## D. 考察とまとめ

エイズ動向委員会の報告によると、2015年の保健所等でのHIV抗体検査件数は、128,241件(前年145,048件)で、相談件数は135,282件(前年150,993件)であった。検査件数は2008年の177,156件をピークとして減少し、13~14万件で推移していたが、2015年には前年よりも減少している。佐野らの報告によると(2015年日本エイズ学会誌)、保健所等検査施設におけるHIV抗体検査の陽性件数はエイズ動向委員会の報告数の約45%に相当しており、保健所・検査所における検査がHIV陽性者同定に重要な役割を担っていると言える。近年、迅速検査や休日・夜間検査の普及などで利便性が向上してきたとは言え、地域や受検者の特性に合わせた検査体制の構築が必要であり、そのためには現状把握および課題の抽出が必須である。

今年度は、HIV感染者およびAIDS患者報告数で常に上位の自治体である東京都において、現状

把握及び課題抽出のための聞き取りを行った。ターゲットを明確にした受検勧奨の必要性、受検者の属性やニーズ把握の必要性、外国人対応の課題、などが挙げられたが、喫緊の課題として、梅毒の流行・急増が明らかになった。

東京都内保健所等での梅毒検査の状況は、貞升らが東京都健康安全研究センターに委託されている分について報告している（2013年東京都健康安全研究センター年報）が、東京都内各保健所等における検査体制の詳細と梅毒陽性者数については明らかになっていなかったため、アンケートを実施した。

アンケート調査では、アンケートを回収できた35か所のうち30か所（86.7%）でHIV検査と同時に梅毒検査を実施しており、うち27か所

（77.1%）は定例検査で実施していた。現在実施していない施設も、梅毒の流行を鑑み今後の検査実施を検討していると回答しており、職員への情報提供や啓発資料の充実が必要になると考えられる。検査方法はRPR法とTPHA/TPLA法による検査を同時に実施している施設が19施設（63%）であった。検査検体の委託先は東京都健康安全研究センターと民間会社がほぼ半々であった。2013 - 2015年の3年間のHIV検査結果別の梅毒陽性率（TPHA/TPLA法による）は、HIV陽性者でHIV陰性者数の梅毒陽性率（TPHA陽性率）は約3%、HIV陽性者数の梅毒陽性率は約30%であった。HIV陽性者における梅毒陽性率は明らかな変化を認めなかった一方で、HIV陰性者における梅毒陽性者数および陽性率は上昇していた。

梅毒はHIVと感染経路を共有し、HIV重感染のリスクを高める。したがって、梅毒感染者は検査時点でHIV陰性であっても、今後陽性に転じる可能性がある。今回のアンケートのように、HIV検査と同時に実施している梅毒検査での梅毒陽性率を見ることで、保健所・検査所をHIV感染のハイリスク層が受検しているかどうか、いわば保健所・検査所検査の質、を間接的に評価することが可能である。また、梅毒啓発をHIV検

査・相談の場で併せて実施することにより、HIV自体の予防対策にもなる。次年度以降は地方の保健所・検査所へも調査を拡大予定である。

今年度は、アンケート実施に加え、保健所職員を対象とした研修会の実施や啓発資料の作成という対策・実装に結び付けることができた。また、聞き取りで得られた意見を他の研究班や関係各所にも周知・共有できた。梅毒を含め他の性感染症の動向にも注意し、より効果的なHIV検査・相談の実施とHIV検査受検勧奨に役立つ取り組みが必要である。

## E.健康危険情報

なし

## F.研究発表

なし

## H.知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

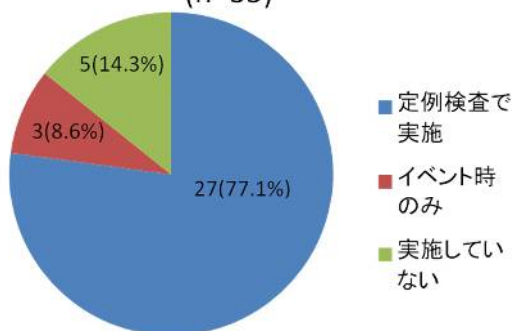
なし

## 謝辞

日常業務で忙しい中、聞き取りおよびアンケート調査にご協力いただいた東京都内の保健所等関係者の皆様方、梅毒啓発資料作成に当たり多くのご助言をいただいた新宿区保健所保健予防課の皆様へ深く感謝申し上げます。

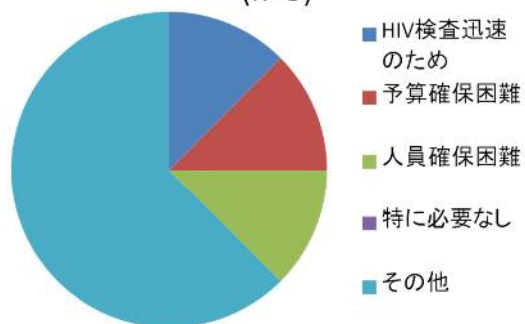
### 梅毒検査の実施状況

(n=35)

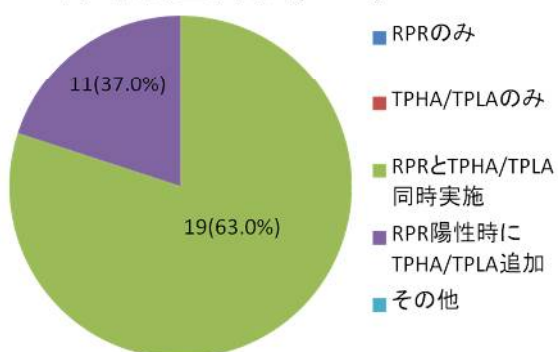


### 梅毒検査を実施しない理由

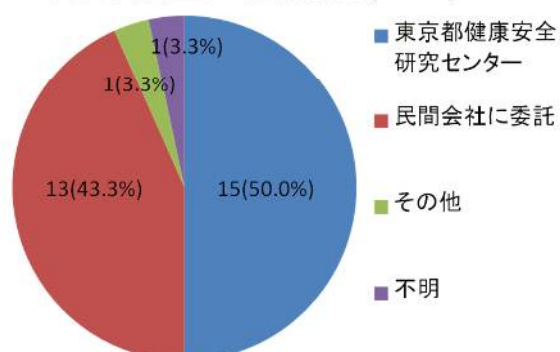
(n=5)



### 梅毒検査方法(n=30)



### 梅毒検査の委託先(n=30)



### 梅毒検査結果の伝え方

(n=30)

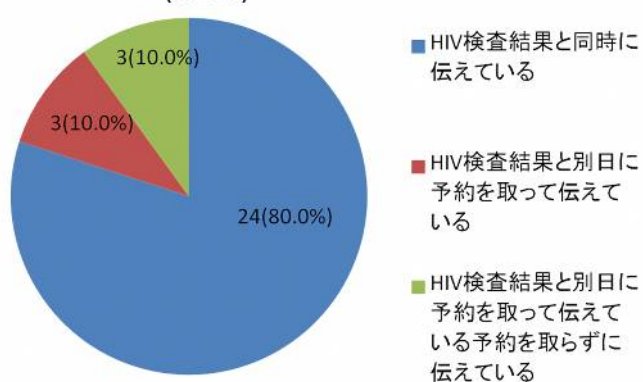


表1.HIV検査結果別梅毒陽性率

RPR法と TPHA法 同時実施	梅毒			RPR陽性の みTPHA検査 実施を含む	梅毒		
	HIV(-)	TPHA (+)	陽性率 (%)		HIV(-)	TPHA (+)	陽性率 (%)
2013年	5964	177	3.0	2013年	7301	218	3.0
2014年	6662	238	3.6	2014年	7827	276	3.5
2015年	8150	330	4.0	2015年	9420	366	3.9
合計	20776	745	3.6	合計	24548	860	3.5

	梅毒				梅毒		
	HIV(+)	TPHA (+)	陽性率 (%)		HIV(+)	TPHA (+)	陽性率 (%)
2013年	24	6	25.0	2013年	26	8	30.8
2014年	39	14	35.9	2014年	41	14	34.1
2015年	44	14	31.8	2015年	44	14	31.8
合計	107	34	31.8	合計	111	36	32.4

\*2013年の集計は、4~12月の集計のみの保健所あり

平成 28 年 12 月 吉日

各 保 健 所 長 様

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

HIV 検査受検勧奨に関する研究班

研究代表者 がん・感染症センター都立駒込病院感染症科 今村顕史

研究協力者 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 土屋菜歩

**保健所・検査所における梅毒検査実施状況に関する調査へのご協力をお願い**

謹啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、平成 28 年度厚生労働科学研究事業の一環として、保健所・検査所における梅毒検査実施状況に関する調査を実施することとなりました。従来 HIV 感染と梅毒を含む性感染症が密接に関連していることが知られています。本研究は、HIV 検査の受検勧奨を目的に、近年増加している梅毒と HIV 感染との関連についての調査を行います。保健所・検査所での HIV 検査と梅毒検査の実施状況および梅毒検査陽性率を明らかにすることで、HIV 検査の場における梅毒同時検査と啓発の重要性を示したいと考えております。

つきましては、別紙のアンケート内容をご確認いただき、貴施設での HIV 検査の場においての梅毒検査実施状況についてご回答いただければと存じます。アンケート用紙 1、2 にご回答の上、平成 28 年 12 月 16 日 (金) までに、返信用封筒にてご返信いただくようお願い申し上げます。また、一つの保健所で複数の HIV 検査相談施設（保健所支所、保健センター等）を管轄している場合には、アンケート用紙をコピーの上、各施設単位でご回答いただきますよう、お願いいたします。業務ご多用の折、大変恐縮ではございますが、本調査研究の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力賜りますようお願い申し上げます。

謹白

本調査に関するお問い合わせ先

電話番号:022-273-6212

e-mail: nahot@megabank.tohoku.ac.jp

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構

予防医学・疫学部門 土屋 菜歩

## 保健所・検査所における梅毒検査実施状況に関するアンケート

このアンケートは、HIV 検査を実施している保健所・検査所における梅毒の啓発および梅毒感染者同定につなげるための情報収集として行うものです。

\*集計結果は学会・学術誌などに発表することがありますが、個別の施設が分かる形では、特別に許可を得た場合を除き公表することはありません。

貴施設名： \_\_\_\_\_

連絡ご担当者名： \_\_\_\_\_

職種： 医師 ・ 保健師 ・ 事務 ・ その他（ \_\_\_\_\_ ）

連絡先： TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_

貴施設での梅毒検査の実施状況につきまして、以下の問いにお答え下さい。当てはまるものを一つ選んで☑を入れて下さい。

1. HIV 検査と併せて梅毒検査を実施していますか？

- 定例検査(毎月の検査)で実施している
- エイズ月間等のイベント時のみ実施している(時期： \_\_\_\_\_ 月)
- 実施していない

理由(複数回答可)

- HIV 検査を迅速で実施しているため
- 予算確保が難しいため
- 人員確保が難しいため
- 特に必要性を感じない
- その他( \_\_\_\_\_ )

アンケートは  
これで終了です。

2. どのような梅毒検査方法を実施していますか？

- RPR 法のみ
- TPHA 法/TPLA 法のみ
- RPR 法と TPHA 法/TPLA 法を同時に実施
- RPR 法で陽性だった場合に TPHA 法/TPLA 法を追加で実施
- その他( \_\_\_\_\_ )



3. 梅毒検査の判定はどこに依頼していますか？

- 東京都健康安全研究センター
- 民間会社に委託
- その他 ( )

4. 梅毒検査の結果は、どのように伝えていきますか？

- HIV 検査の結果と同日に伝えている
- HIV 検査の結果と別日に予約を取って伝えている
- HIV 検査の結果と別日に予約を取らずに伝えている
- その他 ( )

5. 貴施設の過去 3 年間の HIV 検査結果別梅毒陽性者数を教えてください。(HIV 検査数は、梅毒検査と同時に実施した HIV 検査の数のみをご回答ください)感染症動向との比較のため、年度ではなく、1 月から 12 月までの集計でお願いいたします。

(1) HIV 検査陰性例における梅毒検査陽性者数

	HIV (-)	RPR(+)	TPHA(+)	その他の梅毒検査 (+)
H25 年				
H26 年				
H27 年				

(2) HIV 検査陽性者における梅毒検査陽性者数

	HIV (+)	RPR(+)	TPHA(+)	その他の梅毒検査 (+)
H25 年				
H26 年				
H27 年				

ご協力ありがとうございました。

## 保健所職員向け梅毒/HIV 研修会

### ～今知っておきたい 梅毒の「い・ろ・は」～

この度、近年の梅毒の届出件数の急増に鑑み、HIV および梅毒を含む性感染症の検査・相談を実施している保健所職員の皆様を対象に、今後の予防対策に生かしていただくため、標記研修会を特別区予防課長会のご協力で、下記のとおり開催いたします。

ご多忙の折とは存じますが、是非とも多くの職員の皆様にご出席いただきますようお願い申し上げます。

#### 記

開催日時 平成29年3月9日（木）16：00～17：00

会場 東京区政会館20階205会議室（千代田区飯田橋3-5-1）

対象 特別区、保健所設置市、東京都の保健所職員

講師 がん・感染症センター都立駒込病院感染症科部長 今村顕史先生

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

「HIV 検査受検勧奨に関する研究班」

研究班代表者 がん・感染症センター都立駒込病院感染症科 今村顕史

「保健所における HIV 検査・相談の現状評価と課題解決に向けての研究」

分担研究者 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 土屋菜歩

東京都各保健所及び八王子市、町田市の参加者については、3月6日まで  
に堅多宛連絡願います。

#### 【問合せ先】

東北メディカル・メガバンク機構 土屋菜歩

電話：022-273-6212

東京都福祉保健局エイズ対策担当課長 堅多敦子

電話：03-5320-4488